

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第1部門第2区分
 【発行日】平成18年10月5日(2006.10.5)

【公表番号】特表2005-531377(P2005-531377A)
 【公表日】平成17年10月20日(2005.10.20)
 【年通号数】公開・登録公報2005-041
 【出願番号】特願2004-518674(P2004-518674)
 【国際特許分類】

A 6 1 M 25/08 (2006.01)

A 6 1 M 25/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 25/00 4 5 0 R

A 6 1 M 25/00 4 2 0 P

【手続補正書】

【提出日】平成18年8月21日(2006.8.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

遠位端にカテーテル(4)が取り付けられた、ほぼ中空円柱形のカテーテルハブ(2)と、

準備完了位置においては上記カテーテルハブ(2)と上記カテーテル(4)とを通過して伸びる中空ニードル(9)が取り付けられているニードルハブ(8)と、

上記カテーテルハブ(2)内において上記中空ニードル(9)に取り換え可能に配設され、準備完了位置において上記カテーテルハブ(2)の内側周縁部に形成された係合手段(5)と係合するとともに、上記中空ニードルが上記カテーテルハブ(2)から除去されるときに、ニードル先端部近傍で上記ニードルと係合することができる係合部(13a、13b)を有するニードル保護部材(13)とを備えているカテーテル挿入装置であって、

上記カテーテル(4)と上記ニードル保護部材(13)との間において、上記カテーテルハブ(2)内にチェックバルブ(7、17)が配設され、

準備完了位置においては、上記中空ニードル(9)が、上記チェックバルブを通過して伸び、かつ、上記チェックバルブが、上記中空ニードルの除去後に自動的に閉じるようになっているとともに、

上記カテーテルハブ(2)内で取り換え可能に案内されるようになっているとともに、準備完了位置においては、上記ニードル保護部材(13)を受け入れるための中空空間部を有しているバルブ駆動部材(10)が設けられていることを特徴とするカテーテル挿入装置。

【請求項2】

上記カテーテルハブ(2)が2部品構成であり、上記チェックバルブ(7、17)が、互いに結合された遠位ハブ部材(3)と近位ハブ部材(5)との間に保持されていることを特徴とする、請求項1に記載のカテーテル挿入装置。

【請求項3】

上記バルブ駆動部材(10)が、軸方向に伸びる少なくとも1つのプランジャ部(10b)を有していることを特徴とする、請求項1に記載のカテーテル挿入装置。

【請求項 4】

上記バルブ駆動部材（10）が、先端が切り取られた円錐形の遠位端部（10a）として形成されていることを特徴とする、請求項1～3のいずれか1つに記載のカテーテル挿入装置。

【請求項 5】

上記カテーテルハブ（2）の内側周縁部に形成された上記係合手段（5）が、半径方向に突出する突出部（5b）の形態であることを特徴とする、請求項1に記載のカテーテル挿入装置。

【請求項 6】

上記チェックバルブ（7、17）がバルブディスク（7）の形態であって、上記バルブディスク（7）が、該バルブディスク（7）の中心部から半径方向外向きに伸びる少なくとも1つのスリット（7a）を備えていることを特徴とする、請求項1に記載のカテーテル挿入装置。

【請求項 7】

上記中空ニードル（9）が、クリンプ部（9b）の形態の上記ニードル保護部材（13）のための係合手段を有していることを特徴とする、請求項1～6のいずれか1つに記載のカテーテル挿入装置。

【請求項 8】

上記ニードル保護部材が、開口部が設けられた後壁（13c）に端を発し直径方向にみて反対向きのバネアーム（13a、13b）を有するバネクリップ（13）として形成されていて、

上記バネアームが互いに交差するとともに、準備完了位置においては上記ニードルによって強制的に離間させられ、

上記ニードルを上記カテーテルから除去する際に、上記ニードルのクリンプ部（9b）が上記ニードル保護部材（13）の後壁（13c）に当接したときに、上記バネアームの遠位端部がニードル先端部と重なり合って該先端部を遮蔽することを特徴とする、請求項6に記載のカテーテル挿入装置。